工大広報

No.291 Autumn 2018 2018年12月27日発行

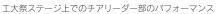
(年 4 回発行)

2018年12月27日発行(年4回発行)

第43回工大祭 「Bloom~平成最後に咲き誇れ~」開催

第33回北海道科学大学との定期戦 開催







第43回 工大祭

日時: 平成30年10月13日(土) ·14日(日)

会場:八木山キャンパス

平成30年の工大祭テーマは「Bloom~平成最後に咲き誇 れ~」。今年は新しいことへの挑戦ということで、「スタンプ ラリー」や「ステージ自主企画」を実施し、本学学生と共に作 り上げる大学祭を目指しました。その結果、今年も多くの来 場者に工大の魅力を伝え、平成最後にふさわしい笑顔が咲 き誇る工大祭とすることができました。





















第43回 工大祭について(報告)

本田 春彦 学生委員会副委員長 共通教育センター 准教授

第43回工大祭 『Bloom』 が10月13·14日の2日間、東北工業大学 八木山キャンパスにて開催されました。開催期間中は好天に恵まれ、 盛況に終えることができ、平成最後という節目にふさわしい工大祭に なったのではないかと思います。それを支えたのは、ゲストの方々、来 場者の方々、学生、教職員すべての参加者の皆様のおかげと深謝いた します。

平成最後の節目が今年の工大祭であれば、来年は新たなスタート を切るという節目の工大祭となります。工大祭の歴史や伝統を次の 世代がどのように継承し、発信していくか次の工大祭が待ち遠しく感 じられますが、今はもう少しBloomの余韻に浸りたいと思います。

最後に、この広報誌に目を通してくださっている皆さまには、いま一 度, 工大祭を思い返していただき、どんなことでも構いませんのでご 意見・ご感想、そしてアイデアを大学事務局あるいは大学祭実行委員 会までお寄せいただければ幸いです。次の工大祭の進化にご協力の ほどお願い申し上げます。



第43回工大祭「Bloom~平成最後に 咲き誇れ〜」を振り返って

今野 直牛 経営コミュニケーション学科 3年

第43回工大祭は、「Bloom~平成最後に咲き誇れ~」という テーマのもと、工大祭に関わる全ての方々に笑顔が花開くこと、ま た本学の更なる発展への貢献を目指し、実行委員一同活動してき ました。今年はより多くの工大生に参加してもらいたいという強 い思いがありました。新しいことへの挑戦をかかげ、展示企画の スタンプラリーと学生自主企画の実施として、野外ステージでの パフォーマンス、学内装飾の吊るし飾りを展示しました。また各企 画の周知活動を徹底したことにより、学生屋台の出店数増加、ゲ ストライブの一般・学生のチケット完売などに繋がりました。総来 場者数も昨年に続き5000名を超え、たくさんの笑顔が咲き誇る 平成最後にふさわしい賑わいとなりました。両日とも天候にも恵 まれ、大成功で終えることができましたこと、ご協力、ご支援いた だきました皆様に実行委員会一同、心より感謝申し上げます。あ りがとうございました。

-般企画

副委員長:一般企画長 今野 建築学科 3年

今年は、本学学生と ともに作り上げる工大 祭にしたいという強い 思いがありました。学 内での屋台・展示企画



募集の周知を徹底したことにより、昨年よりも多くの工大生に 参加してもらうことができました。企画数が増えたことによる会 場レイアウトを考えるのに苦労しましたが、各企画の魅力が咲 き誇るように配置し、平成最後にふさわしい工大祭にできたと 感じています。ご当地グルメ企画では、今年も9団体の学外出店 者にご協力をいただき、明石焼やジンギスカンなどを提供しま した。また、来場者の皆様に満足感を得ていただけるよう、工大 祭特別価格での提供や限定商品の販売もしていただきました。 来年も今年以上に盛り上がる工大祭にして欲しいと思います。

スポーツ企画

野外特別統括企画長 增森 裕樹 経営コミュニケーション学科

大学祭前日の12日 (金) にスポーツ大 会を開催しました。 スポーツを通して、 工大生・教職員が



親交を深め、さらに試合で盛り上がった勢いを工大 祭に繋げるという役割があります。学内放送やポス ターなどで積極的な周知活動を行ったため、例年よ り多くの参加者が集まりました。雨天による中止競 技もありましたが、参加者全員が笑顔で試合をし、 怪我なく無事に終えることができたことを嬉しく思 います。来年は更に参加者を増やし、工大祭の盛り 上げ役となれるように工夫して取り組んでほしいで す。たくさんのご参加ありがとうございました!

広報企画

おおとも 広報企画長 **大友** うらら 建築学科 3年

県内7大学が連 携して活動している 宮城UNIFESに参加 し、協同でYouTube 広告を制作しまし



た。主に若年層へPRすることができ、集客に繋がった と感じています。その他に、ラジオ・テレビ番組への出 演、仙台アーケードでのビラ配りなどを行い、工大祭 をより多くの方に知っていただけるよう、大学祭実行 委員全員で協力して活動を行ってきました。工大祭当 日は県内のゆるキャラを招致し、子どもから大人まで 幅広い年代の方々とふれあい、また写真撮影もしてい ただきました。たくさんの方の笑顔が咲き誇り今年の テーマにふさわしい工大祭になりました。

後藤 比名人 コンサート企画長 建築学科 3年

本学学生に工大祭 に参加してほしいとい う思いがあり、招致し てほしいお笑い芸人、 アーティストについて



学内アンケートを実施しました。アンケート結果に基づき、13 日(土)のお笑いライブに、西村ヒロチョとガンバレルーヤの 2組、14日(日)のアーティストライブにはsumikaを迎えまし た。sumikaのライブでは、一般・学生チケットを完売させ、入 場者数は過去最多の1,386名を記録し、会場は熱気に包ま れました。両日ともたくさんの来場者の皆さまに笑顔が咲き 誇る企画になったと感じています。来年度以降も工大祭のメ イン企画として楽しんでいただけるように頑張っていきたい と思います。 是非、来年も工大祭にお越しください!

パンフレット企画

パンフレット企画長 佐藤 愛華 建築学科 3年

大学祭を周知するポスターや、来 場者の皆様に配布するパンフレット を製作しました。ポスターはなるべく 文字を減らして見やすいように工夫 したり、今年のBloomというテーマに 沿って、お花をたくさん使ったデザイ ンにしました。ウェブサイトも見てく



ださる方が分かりやすいようなレイアウトを考えました。

また、新たな試みとしてスタンプラリーを行い、集客数確保 が課題となっていた展示企画にも、多くの方に足を運んでいた だくことができました。

教職員の方々や、協力してくれた大学祭実行委員会のメン バー、協賛していただいた企業の方などのたくさんの方々に感 謝申し上げます。ありがとうございました。

幼稚園企画

幼稚園企画長 菅原 環境エネルギー学科 3年

今年は[ふら わーらんど」とい うテーマのもと、 体験型のイベン トを通して子ど



もたちの笑顔が咲き誇るようにしたいという 思いで企画しました。昨年と同様に工作イベ ントを行い、ものづくりの楽しさを多くの子 どもたちに伝えることができたと思います。 また、手作りのダンボール迷路は今年も人気 で、実行委員と遊ぶ子供たちの笑顔がとても 印象的でした。新たに見つかった問題点を改 善し、来年も子どもたちが楽しめる企画を考 案してくれることを期待しています。

ステージ企画長 佐藤 光 経営コミュニケーション学科 3年

毎年恒例の吹奏楽 部、チアリーダー部、 ダンスサークルに加 え、今年は應援團に もパフォーマンスを



披露してもらいました。今年は学生主体の工大祭にす るために、「ステージ自主企画」を行い、工大生である Hip-Hop Crew [ISM] をはじめ、多くの工大生に参加 していただき、野外ステージを盛り上げることができま した。来場者参加企画とビンゴ大会には例年以上に多 くの方に参加していただき、来場者の皆さまに楽しんで いただくことができたと感じています。今年の反省点を 活かして、来年度の工大祭では新たなステージ企画を 考案し、今年以上に盛り上げてほしいと思います。

祭飾企画

祭飾企画長 岡田 雄貴 建築学科 3年

会場内に設置す る案内看板や正門 に設置する門看板 を制作しました。来 場者の皆さまに、今



年の工大祭テーマである「Bloom~平成最後に咲き誇れ ~」を感じていただけるよう、花を模した看板制作や装飾 を施しました。1.9号館の階段には花を飾り付け、9号館 と10号館間のコロネードには、学生自主企画団体が折り 紙で制作した吊るし飾りで、学内を華やかにすることが できました。昨年に引き続きInstagram風看板を用意し、 多くの方がSNSに投稿してくださったことにより、工大祭 をPRすることができたと思います。来年もテーマに関連 した祭飾で工大祭を色付けてくれることを期待していま す。





工学部 電気電子工学科

学科ブースでは、実機のデモンストレーションや体験学習企画が開催されました。また、ミ



二講義では、光・情報デバイス、電子機械・ロボット、医工学・バイオの各分野の先生と大学院生から最先端の研究成果について講演がありました。屋台企画では恒例となっている研究室はもちろん、新規参入の研究室からも学生の活気ある声が響き賑わっていました。

工学部 都市マネジメント学科

都市マネジメント学科では、橋梁点検装置「診れるんです」と「ドライブシミュレータ」の他、測



量装備、リニアなど学科の学びやカリキュラムに対する展示を行い、子供から高校生や一般来場客まで、足を運んでいただいた多くの方々に「まちづくりのドボク」をアピールしました。「紙で橋をつくってみよう」では、ドボクを直接体験することができ来場客から好評を得ました。学科屋台のクレープ屋では、3年生と1年女子学生が中心となり、楽しく大学祭へ参加しました。

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科

本学科では、 各研究室のパネル展示、地域 資源である雄 勝石を使った 小物づくりの



体験コーナー、視覚や聴覚に障がいのある 方々の作品展示、八木山地区での防災活動のパネル展示を行いました。恒例となった「てづくり市」では、学科と結びつきの深い雄勝、登米、秋保、津山の物産を展示販売し、どのブースにも多くの人々が訪れ、地元の食材を使用した食品や地元の木材を活用した工芸品などを手に取り、買い求めていました。

工学部 情報通信工学科

情報通信工学 科では、6つの研 究室が参加し、 研究成果の展示 や電子工作体験 を開催しました。



お子様から年配の方まで様々な方にご来場いただきましたが、相手に分かってもらえるようにと説明を頑張る学生達と、熱心にそれを聞いてくださった来場者とのやりとりが印象的でした。また併設したセルフサービスのTカフェで一息つきながら、教員に学科についての質問をする高校生と保護者の方々も見られ、好評のうちに学科企画を終えることが出来ました。

工字部 環境エネルギー学科

環境エネルギー学科では、田倉哲也研究室と内田美穂研究室による体験企画、齋藤輝文研



究室によるソーラークッカー屋台、中庭でのセグウェイの試乗会を開催しました。体験企画ブースにおいては、来場者の皆さまが学生の説明に熱心に耳を傾ける光景が見られ、子どもから年配の方まで楽しんで参加していただくことができました。

屋台は、当日は天候に恵まれ、太陽光で 調理したソーセージ、しゅうまいなどが無 料で振る舞われました。

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科

今年でライフデザイン学部は10周年です。 そこで、経営コミュニケーション学科では、大



学祭初日4名の卒業生に来ていただきトークショーを行いました。MC学科に興味を持っている高校生や在校生に向けて学生生活で学んだことや就職活動の話などためになることをいろいろと教えてくれました。また、学科企画の喫茶店では、学生達が美味しいコーヒーとワッフルをお客様に提供し、教室は常に明るい雰囲気に包まれていました。

工学部 建築学科

建築学科では「糸が編み出すインスタレーション」ということで、工大祭に色をもたらすよ



うなインスタレーションの制作に挑みました。学生50名ほどでコンペをして、デザインを決定し、施工方法を考えながら設計しました。展示物ということで工大祭2日間を保てるよう様々な工夫をしながら制作しました。当日は、来場者の方々が写真を撮ったり、中に入ってもらったりとインスタレーションを体感いただき、無事成功することが出来ました。

ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科

学生のデザインによる型を使った型染ワークショップには、お子さんからご年配の方まで、



多くの方々にご参加いただきました。参加者は学生スタッフのアドバイスを受けながら、ハンカチに自分の好みの型を配置して、色を選び、絵の具をのせ、世界にひとつだけのハンカチを完成させました。学生スタッフは、小さなお子さんやご年配の方にはお手伝いしたり、高校生や一般の方には大学での学びについて語ったりと、様々な交流がありました。

共通教育センター 教職課程センター

共通教育センターと教職課程センターでは、 『ものしりクイズ大会』と『これはびつくり液



体窒素実験室』を開催しました。毎年恒例の企画になりつつあり、どちらの企画にも子どもから大人まで多くの方に来場していただきました。今年のクイズ大会は、クイズ研究会の学生のみなさんとのコラボ企画となり、予選・○×クイズ→決勝・早押しクイズという新しい方式を採用しました。世代を超えて楽しめた企画だったように思います。来年また、企画に磨きをかけて実施したいものです。

電気電子工学科

第5回電気電子テクノフォーラムを開催

本年度も電気電子工学科では、「私たちの生活を支える電気電子工 学」と題して、工大祭の期間中に電気電子テクノフォーラムを開催しまし た。主企画として3つの専門分野(電子機械・ロボット系、医工学・バイオ 系、光・情報デバイス系)から6名の教員と3名の大学院生が最先端の専 門分野の研究を分かりやすく紹介するミニ模擬授業が行われ、多くの高 校生や保護者の方々に熱心に聴講していただきました。また、研究のデ モ展示、Raspberry Piプログラミング教室、知能移動ロボット・EVカー ト試走体験などの体感型企画も行いました。幅広い年齢の方が楽しく 参加してくださり、電気電子工学を身近に感じていただく良い機会にな りました。



入試広報課

第3回オープンキャンパスを開催

今年度3回目となるオープンキャンパスを、10月13日(土)、14日(日)の 二日間、「工大祭」と同時開催しました。 二日間とも天候に恵まれ、県内外 から高校生や保護者など両日合せて318名にご来場いただきました。

学生や教職員が来場者に楽しんでいただけるように準備を進めた様々 な展示や屋台、野外ステージでの応援団やチアリーダー、吹奏楽部やダン スサークルの各種パフォーマンスなど、工大祭を通してご来場いただいた 皆さんにはたくさんの東北工業大学を体験していただきました。また、入 試相談コーナーにも受験を控えた多くの高校生などが訪れ、熱心に質問

今回のオープンキャンパスにご来場いただいた皆さんの中から、将来の 「大学祭実行委員」や工大祭を一緒に盛り上げてくれる学生が生まれる ことを期待しています。



教務学生課

平成30年度 後援会主催大学見学会

第43回工大祭に合わせ、10月13日(土)・14日(日)に後援会の大学 見学会が行なわれました。13日(土)は、青森、秋田、岩手、山形、福島、新 潟の各県支部のご父母及び役員の方244名、14日(日)には宮城県内の ご父母及び役員の方119名が本学八木山キャンパスを訪れました。

見学会の前には、大学祭実行委員長から今年の工大祭のテーマや企 画についての説明と、委員長として大学祭に懸ける思いが語られ、ご父 母の皆さまは真剣に耳を傾けていました。

見学会では、日頃ご子息が学生生活を送っているキャンパスを見学 し、サークル展示や学科企画など、趣向を凝らした催しを通して、学生の 活気あふれる姿を見ていただきました。



今野弘学長の挨拶



第33回北海道科学大学との 定期戦対戦成績報告

本田 春彦 学生委員会副委員長 共通教育センター 准教授

第33回の北海道科学大学との総合定期戦が8月28日(火)・29日(水)に北海道 科学大学のキャンパスで開催されました。参加した選手の皆さん、サポートを担っ た学生の皆さん、おつかれさまでした。そして運営協力に携わった皆さまに深く感 謝いたします。

競技別に見ると連勝を果たした種目や雪辱を果たした種目もありますが、総合 成績は、9連敗(本学の3勝9敗)を喫することになり、とても厳しい結果となりまし た。スポーツには勝敗がつきものだと分かっていても、悔しさもあればもどかしさ もある、というのが皆さんの正直な気持ちだと思います。その一方で、勝つても負 けても互いを称え合う両大学の皆さんをみると、とても清々しい気持ちになり、ス ポーツが持つ豊かな可能性を感じる瞬間でもあります。

来年は、10連敗の阻止、という大きなチャレンジとなります。全員が、自らのポテ ンシャルを発揮できるよう、"日々"これまでよりももう少しだけがんばりましょう!





第33回総合 定期戦を終えて りょう **凌** 猪股 課外活動連合委員会事務局長 建築学科

今年の総合定期戦は北海道科学大学 にて行われました。定期戦当日は雨も降 ることなく、無事に全ての競技を行うこ とができました。これは両大学の関係者 の皆様のおかげだと考えております。ご 尽力してくださった方々に感謝申し上げ ます。

3年

さて、総合定期戦の結果は、今年も本 学が総合優勝を逃してしまいました。し かし、試合終了後には両大学の選手同 士が握手を交わし、友情が芽生える素晴 らしい大会になったと思います。次年度 こそは本学が総合優勝することを願っ ております。



定期戦を終えて 直人 菅原 学部学生会会長 情報通信工学科 3年

第33回総合

第33回総合定期戦は、北海道科学大 学での開催となり、天候は昨年とは一転 して大会日和の快晴となりました。

本学の結果としては、3対9と総合優勝 を逃しましたが、どの試合でも応援する 側に選手の熱が伝わる熱戦でした。

また、両大学選手が交流を深めると いった場面もあり、両大学のより友好的 な関係の一歩となったのではないかと思 います。

最後になりますが、本大会運営にあた りました関係者並びに選手の皆様に最 大限の感謝と御礼を添えて報告といたし ます。

第33回北海道科学大学・東北工業大学 総合定期戦報告

種目	東北工業	業大学	対	北海道	道科学大学
サッカー	0	4	_	1	•
ソフトテニス	•	2	_	3	0
硬式テニス	•	1	_	4	0
バスケットボール	•	70	_	83	0
剣道	•	1	_	6	0
柔道	•	0 (2	_ 2 引:	1 分)	0
アメリカンフットボール	0	13	_	9	•
バレーボール	0	3	_	2	•
ハンドボール	•	19	_	25	0
弓道	•	90	_	99	0
バドミントン	•	1	_	4	0
卓球	•	2	_	5	0

教職員20名、指導者4名、 参加者

学生227名

合計 251名

平成30年8月28日(火)·29日(水) \Box 程

北海道科学大学 場 所

結

果 東北工業大学3勝 績

北海道科学大学 9 勝

総合優勝 北海道科学大学



浅利 穂乃香 硬式野球部 主務 経営コミュニケーション 学科 2年

第44回 千葉工業大学硬式野球部定期戦

今回で44回となる千葉工業大学との定期戦が、8月15日(水)に 千葉工業大学野球場にて、晴天の中、熱戦が繰り広げられました。 本学は初回、佐藤寿樹(安全安心生活デザイン学科3年)の二塁打 などにより3点を先制すると、その後も加点し、試合を優位にすす めました。先発した庄司恭啓(安全安心生活デザイン学科3年)は5





回を2失点に抑え、その後のリリーフ陣も踏ん張り9-4で5年ぶりに白星を挙げることができました。 今年度より定期戦優秀選手賞が制定され、庄司修也(安全安心生活デザイン学科1年外野手)が選ばれました。 また、試合後の懇親会では、お互い秋季リーグ戦での活躍を誓い、親睦を深めることが出来ました。

第44回千葉工業大学・ 東北工業大学定期戦(硬式野球)

場 所 千葉工業大学 野球場

日 程 平成30年8月15日(水) 結 果 東北工業大学 9 - 4 千葉工業大学 参加者 小幡早苗監督、佐々木ヘッドコーチ、須藤将仁コーチ、部員71名



吊るし飾りワークショップ ~和柄から文化を学ぶ~

伊藤

クリエイティブデザイン学科 3年

学生自主企画「吊るし飾り」は、安全安心生活デザイン学科とク リエイティブデザイン学科の3年生、計7名で活動しています。

例年の工大祭では広場に多くの出店がある一方で、9・10号館 間の通路での出店は人通りが少なくお客様が入りづらい雰囲気が あり、屋台に立ち止まってもらえないと例年感じていました。

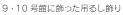
その思いから工大祭を賑やかに彩る見ものを作ろうという目的 でこの企画を考えました。

工大祭のテーマ 「Bloom~平成最後に咲き誇れ~」 から飾りに は花を主軸として選びました。その中には、花言葉として「歓迎」 や「希望」を意味するものを取り入れました。

また、ワークショップも開き、小さい吊るし飾りの製作体験をし てもらいました。

一般のお客様や学生から「綺麗」や「お祭りらしさがあって素 敵」という声のほかに「昨年よりも人通りが多い」などの評価をい ただきました。







吊るし飾りワークショップ



工大クイズプロジェクト 2018

佐藤 颯太

都市マネジメント学科 1年

学生自主企画「工大クイズプロジェクト」はクイズを通して学内 外の方々との交流を図り、クイズの楽しさを知ってもらうことを目 的に活動をしています。

ここで皆さんに問題です。食卓用で使われているナイフの刃先 が丸い理由は次の内どれでしょう。

A: 暗殺などを防ぐため B: 尖っていて危ないから C: テーブル マナーが悪かったから

答えはCの 「テーブルマナーが悪かったから」 でした。 皆さんは 分かりましたか?

このような形で約60問のクイズを工大祭が開催された10月13 日、14日の2日間の午前と午後に分けて出題させていただき、2日 間で合わせて約120名の方に参加していただきました。当日のク イズ大会に参加してくださった方にも沢山考えていただき、我々と しても大変作り甲斐のある楽しいクイズ大会になりました。





小さなお子さまにも楽しんでもらいました 大学祭ものしりクイズ大会

奨学生紹介

平成30年度 公益信託岩井久雄記念 宮城奨学育英基金

選考の結果、本学からは学部・大学院 合わせて4名の学生が奨学生として採用 されました。選ばれた皆さまのさらなる 飛躍を期待しています。



^{おおたけ} つかさ **大竹 司真** 工学研究科土木工学専攻

▶好きな言葉 継続する勇気



戸来 尋深 情報通信工学科

▶好きな言葉 - 所懸命



いまかわ かなこ 今川 可南子 ライフデザイン学研究科 デザイン工学専攻 1年

▶好きな言葉 絶学無憂



きむら ゆうき **木村 優希** 環境エネルギー学科 3年

▶好きな言葉 感謝を忘れず

平成30年度 郵政福祉教育振興基金奨学生

選ばれた皆さまのさらなる活躍を 期待しています。



鈴木 直仁 環境エネルギー学科 3年

▶好きな言葉 失敗は成功のもと



佐々木 直央 クリエイティブデザイン学科

▶好きな言葉 為せば成る

学部4年生·修士2年生対象学内合同企業説明会



松田 勝敬 就職委員会副委員長 情報通信工学科 准教授

今年も9月13日(木)の午後に、「平成30年度4年・修士2年活動継続者対象 学内合同企業説明会」が開催されました。この時期に開催される長町キャンパスでの学内合同企業説明会は、一昨年、昨年に続き3回目となります。これまでに本学の学生を採用していただいている実績がある、本学の学生の採用に積極的な38社の企業に参加していただきました。興味のある企業のブースを学生が訪問し、企業の担当の方と直接お話をすることができる形で実施しました。

今回の説明会をきっかけとして参加企業を受験した学生が、内 定までつながったところもあります。このように、本学の学生と本



学に縁がある企業とを直接結びつけるイベントの実施などをとおして、きめの細かい学生支援を実施していることが、本学の高い就職率につながっています。

インターンシップ



社会を知る

いしはら ほまれ **石原 営** 情報通信工学科 3年 実習先:株式会社ミライト

私は10日間のインターンシップで通信建設に関わる住宅へのケーブル引き込み体験 実習・現場見学など大学生活では経験できないことを多く学ぶことができました。

今回のインターンシップで『現場の雰囲気を知る』を目標に参加し施工管理の方や現場の職人の方々の業務の流れを知る機会にしたいと考えていました。

実際に働いている方々から聞くお話はどれも今後の就職活動だけでなく大学・社会人の生活に活かされていくものでした。また、他大学の学生が就職に向けてどのように動き、考えているのかを知ることができる貴重な時間でした。





現場を知る

5日間のインターンシップに参加し、Web サイトのデザイン・制作課題や、実案件の対応などに取り組みました。実際の現場を通じて、企業がWebサイトを制作する上で力を入れている点や、相手に分かりやすく説明することの必要性など、業務に必要な知識や姿勢を明確にすることができました。また、社員の方に指導していただき、自分の弱みだけでなく強みを客観的に知る良い機会になりました。

今回の経験は、自身の就職活動へのモチベーション向上につながりました。現状に満足せず、今後の学生生活・就職活動に活かしたいと思います。



スケジュール

日程	行事
5月17日(木)·25日(金)	説明会
6月8日(金)	エントリーシート 提出期限
6月中旬~6月下旬	マッチング
7月27日(金)	事前研修会 (合同開催)
夏季休業期間	インターンシップ実施
10月4日(木)	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数(平成30年度) _(単位:人)

工学部	1年生	2年生	3年生	4年生
電気電子工学科		2		
情報通信工学科		2	15	
建築学科			4	
都市マネジメント学科			10	
環境エネルギー学科			7	
合計		4	36	

ライフデザイン学部	1年生	2年生	3年生	4年生
クリエイティブデザイン学科		1	14	
安全安心生活デザイン学科			2	
経営コミュニケーション学科				
合計		1	16	

※本学窓口を通したインターンシップ参加人数

ビジュアルデザインの可能性を追求しましょう

ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科

篠原 良太 研究室 (SHINOHARA Ryota Laboratory)

本研究室では、ビジュアルデザイン全般の中でも、特にイラストレーションとグラフィックデザインを中心に、研究・制作を行って います。コンピュータを「画材」と定義して、力強さと柔軟さを兼ね備えた表現の可能性を模索しており、ポスターやパンフレットか ら3DCGを用いたイラストレーション・映像制作など、幅広い分野を対象にしています。実践的な制作の対象として、地下鉄東西線の まち歩きマップのデザインや、宮城県公立学校教員募集パンフレット・ポスターの制作など、地域の自治体・企業などと連携しながら 様々なデザインワークに関わっています。研究室Webサイト(http://www.shinolab.com)



学生へのメッセージ

しのはら りょうた **篠原 良太**

クリエイティブデザイン学科 教授

みなさんが研究室で日々取り組ん でいる内容は、様々な問題・課題をビ

ジュアルデザイン (視覚的な情報伝達手法) の力で良い方 向へ導くためのデザインです。アイデアを考えることや制作 して形にすることには価値があります。しかし世の中には、 残念ながらその「デザインの価値」が伝わっていない部分 があることも事実です。卒業して社会に出ると、デザインと いう行為にリスペクトがない人たちとも仕事をしていかなけ ればなりません。そんな中でデザインの価値(もちろん金銭 的な部分だけではありません)を、社会の隅々に浸透させて 行くことが求められます。デザインの価値を生み出すことと 同じくらいに、価値を浸透させていくことは困難ではありま すが、それを乗り越えていくための素地を、日々の学びや制 作活動の中で、自分の中に構築していってほしいと思ってい ます。



研究室のメンバー



それぞれのテーマに取り組みます



化粧品のブランディングデザイン



図形をモチーフにした映像の制作

学生の声



鎌田 美玖 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 篠原研究室4年

卒業制作では、小学校高学年を対象と した絵本の制作を行っています。テーマ は「主人公の現在と未来での考え方の違 い」で、主人公が持つ大切なモノをキー ワードにして物語を制作しています。実際 に小学校に赴いて小学生からの意見も参 考にしながら、よりよい絵本になるように 日々制作に取り組んでいます。画材はアク リル絵具を用いており、抽象表現と具象表 現をミックスさせています。 篠原研究室は いつも賑やかで、イベントが多いのが特徴 です。



赳生 髙橋 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 篠原研究室4年

私は自然の力によって朽ちてしまった 構造物に魅力を感じており、その状況を コンピュータ上に再現することを目的に 卒業制作に取り組んでいます。具体的には 「誰も訪れることがなくなった近未来の 仙台駅」を想定し、3DCG開発環境である CINEMA 4DとUnityを使用して世界を構 築しています。VR作品として完成させる予 定です。研究室にはいろんな感性を持つ 仲間がそれぞれのテーマで制作・研究に 取り組んでいるので、常に刺激しあえると 感じています。



飯塚 しなの ライフデザイン学部 - ^ · · · · クリエイティブデザイン学科 篠原研究室4年

私は3年次後期より、「日常をテーマと したイラストレーションの制作」に取り組 んでいます。日常の空間にぽつりと残され たちょっとしたアイテムに、不思議な実在 性を感じることをきつかけに、誰もいなく なった生活空間に漂う人間の営みをイラス トレーションとして表現しています。篠原 研究室には同じ目的で集まった仲間たち がいます。作品制作に向き合う時間が長い ので、制作に行き詰まった時には、その仲 間たちと会話しながら完成に向けて努力し ています。

教室では語られない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

数学で効率よい 勉強をしよう



堀 則男 建築学科 教授

私の専門は地震工学・耐震構造で、建築学の中でもいわゆる理系寄りであり、研究の道具として微分、三角関数、行列、統計などの数学をしばしば用います。これらは主に高校で学習する内容ですが、卒業研修に取り組むころには記憶も薄れているのが普通なので、これらの確認から入るようにしています。数学は難しく苦手と感じる人も多いかと思いますが、論理的な考えることなど、他の科目においても効率よく勉強することに役に立ちます。江戸時代の和算の工夫、現代の解き方との違いなんかも面白いですよ。

先延ばしを やめよう



大石 加奈子 経営コミュニケーション学科 准教授

皆さんは、物事を先延ばしにしてストレスをためたことはありませんか。課題の期限が来週なのにやってない。試験の日が迫っているのにわからないところを解決できていない。自分の部屋が散らかっている。反対にあなたがすぐにやることは何ですか。SNSを使う、ゲームをする、好きなサイトにアクセスする。それらからはやる前から"快"のイメージを得ているからです。では、やれていないことが終わった様子をイメージするとどうなりますか。課題が仕上がつて目の前にある!わからないところを先生に聞いて解決できた!自分の部屋が綺麗になった!あなたの現実の行動に何か変化が起きますよ。

挑戦する意欲の高まり



高橋 哲徳 共通教育センター 教授(センター長)

大学入試への外部試験導入に関する議論が最近続いていますが、英語の総合的な運用能力を測る試験の一つにTOEICがあります。本学では資格取得支援を目的としてTOEIC対応教材を活用しており、2年生対象の選択科目「資格英語」ではTOEIC受験が義務化されています。今年は前期の時点で、例年の2倍近い学生が目標スコア500点に到達し、数名の学生は600点を超えました。就職活動が本格化する頃までには、さらに高いスコアの獲得も見込まれます。自分自身を1歩前へ押し進めるための挑戦を続ける学生が年々増えてきていることを頼もしく思います。



小刑垢動台と振動増刑を使った実験



2011年4月の地震被害調査 (東松島市)



晴れた朝のバス通勤



オーストラリア研修旅行の引率



TOEIC対策演習の授業



さらなるハイスコアな学生が出てくるか

留学体験

台湾・玄奘大学のサマースクールに 参加しました

台湾・新竹市にある玄奘大学で、平成30年8月6日(月)~19日 (日) (約2週間) の日程にて開催された 「サマースクール (中国語及 び台湾文化交流研修会)」に、クリエイティブデザイン学科4年(匿名 希望)と情報通信工学科1年星野柊平さんが参加しました。

プログラムには中国語や台湾の法律や文化を学ぶ授業のほか、台 湾観光地への小旅行などもありました。玄奘大学の学生との交流を 含め、台湾での異文化体験は観光旅行では味わえない得難い時間と なったようです。







留学体験

タイ・泰日工業大学の サマープログラムに参加しました

タイ国にある泰日工業大学 (TNI) で、平成30年8月23日 (木) ~9月 4日(火)の日程にて開催された [TNIサマープログラム] に、環境エネル ギー学科1年の平塚万実さんと建築学科3年の樫崎まいさんが参加しま した。

プログラムでは、TNI学生の自宅へのホームステイやさまざまなタイ文 化を学ぶ授業のほか、マングローブの植林体験などの異文化体験できる アクティビティも満載で、学生達はたくさんの刺激を受けながらもとて も楽しかったようです。







現地で出会った友達と仲良くなりました



植林作業は泥だらけになります



子供たちと遊んで交流を深めてきました



多くの仲間に会い、たくさんの体験ができ るプログラムでした

大真大学(韓国) および遼寧工程技術大学(中国) と 大学間国際交流協定に調印しました





交流促進に固い握手を交わしました





今後の交流について関係者と 意見交換をしました

平成30年5月18日(金)に、韓国の抱川市にある大真(デジョ ン) 大学に本学から石川善美副学長、都市マネジメント学科・権永 哲准教授、目黒教務学生課長の3名が訪問して、東北工業大学と大 真大学との大学間国際交流協定の調印を行いました。調印式後に は、国際交流担当者と、お互いの大学の状況や今後の交流につい て充実した意見交換が行われ、さらに友好関係を強めていくこと で合意しました。

平成30年9月21日(金)に、中国の瀋陽市にある遼寧工程技術 大学から梁冰学長はじめ5名が来訪され、平成29年に取り交わし た学術交流などの覚書を基に、両学長による大学間国際交流協定 書に調印しました。調印後には訪問団は大学構内の各施設を視察 しました。今回の訪問では、両大学による具体的な交流について意 見交換を行い、さらなる交流の推進を図っていくことで合意しまし た。

地域連携センター・研究支援センターだより

■七夕まつりへの参加

今年の七夕飾り制作は、本学公認団体の「たまごくらぶ」を中 心に、ポータルサイトを通して募った学生、合計30名以上の学生 に制作していただきました。昨年制作に関わった学生に制作過程 の指導を依頼し、デザイン案・コンセプトが決まったところで制 作に取り掛かりました。限られた時間の中での作業は、大変だっ たと思いますが、参加者全員が自分の役割をしつかり果たし、無 事完成しました。完成した七夕飾りはサンモールー番町のアー ケードに飾り、見ていただいた方からは色合いがきれいとの評価 をいただきました。今回の制作に参加した学生にとっても、新た な交友関係が生まれたことは大きな収穫となったと思います。



期間中はたくさんの観光客の皆さんに見てもらいました

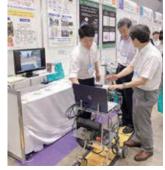
■イノベーションジャパン2018 出展報告

東京ビックサイトで8月30日(木)・31日(金)に開催された「イ ノベーションジャパン2018~大学見本市&ビジネスマッチング ~」に、工学部電気電子工学科丸山次人研究室から「目の不自由 な方を誘導する賢いガイドロボット」を出展・実演しました。

ブースでは、点字ブロックを運び込み敷設して、ガイドロボッ トによるヒトの誘導の実演を行い、ロボットの特徴である点字ブ ロックの識別と自律移動、振動子による意図伝達の研究成果をPR しました。2日間で100名近い来場者の方に体験していただき、多 くの方にガイドロボットの重要性を知っていただく大変良い機会 となりました。

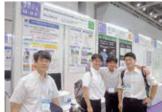
本展示会には、研究室の学生3名も参加し研究成果の説明と実 演を行い、各方面の来場者の声を収集しました。産学連携の場の 体験、研究成果の実演、さらには来場者との交流を深めるなど、学 生達にとっては大変充実した2日間となりました。学生も、収集し た来場者の声を卒業研究に活かしていきたいとのことでした。

地域連携センターでは例年、 本展示会の出展支援を行ってお ります。研究成果の発表の場、 産学連携の場として、次年度も 多くの研究室からの出展を支援 してまいります。





イノベーションジャパン会場入口



展示パネルの前で記念撮影

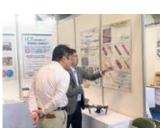
■おおさき産業フェア2018 出展報告

工学部電気電子工学科 丸山次人研究室と環境エネルギー学科 牧雅康研究室が、10月12日(金)・13日(土)、大崎市古川総合体 育館で開かれた「おおさき産業フェア2018」に出展しました。

丸山研究室では、「高齢者の外出を手助けする賢い電動アシス トカート」の研究について、実演を交えカートの特徴である段差乗 り越えや速度制御の操作などの研究成果をPRできました。牧研 究室では、「ドローンを活用した水稲育成管理システム」の研究に ついて、実施成果や研究に用いたドローンの展示など、来場者に興 味をもっていただき、研究から実用化につなぐ良い機会になりまし た。

本展示会には両研究室の学生も参加し、研究成果の説明を行い 各方面の来場者の声を収集できました。産学連携の場を体験する 機会になり、学生達にとっては大変充実した2日間となりました。

地域連携センターでは例年、 本展示会の出展支援を行って おり、研究成果発表の場、産学 連携の場として、次年度も多く の研究室からの出展を支援し てまいります。



パネルを利用し説明を行う牧准教授



東北工業大学出展ブースの様子



来場者の皆さんから貴重なご意見をたく さんいただきました

■一番町ロビー15周年記念事業「一番町ロビー15年の歩みとこれから」開催

一番町口ビー15周年記念事業として、「一番町口ビー15年の歩 みとこれから」を、9月28日(金)に一番町ロビー1Fギャラリーを 会場に開催しました。

前半は、本学地域連携センター羽生田光雄事務長より一番町 ロビー15年間の歩みについて報告があり、15年間で行ってきた 事業について振り返りました。

後半はパネルディスカッション形式で、菅野正道氏 (郷土史 家、元仙台市博物館学芸普及室長)、加野恵子氏(宮城県美術館 学芸員)、関口怜子氏(ハートandアート空間"BEI"代表)、吉田 旺弘氏(本学名誉教授、工大RADIOパーソナリティー)と一番町 ロビー担当職員の佐藤博子さんをパネリストに、本学COC推進 室 佐藤明プロデューサーのコーディネートのもと、今後の一番 町口ビーに対する期待や要望についてご意見、ご提言をいただき ました。学生も参加できるようなワークショップ、展示期間の延 長や広報の工夫などについて要望が出た他、来場者からもご意

見をいただき、充実した イベントとなりました。

今回いただいたご意 見を基に、地域とつな がる拠点として一番町口 ビーをさらに発展させて いきたいと思います。



パネリストのみなさん





後半に行われたパネルディスカッション

たくさんの方から貴重なご意見をいただ きました

■一番町ロビー15周年記念事業「工大の研究ブランディング事業円卓会議 | 開催

一番町口ビー15周年記念事業として、「工大の研究ブランディ ング戦略を考える円卓会議『持続可能な東北を研究・実践する 大学を目指して』」を、10月1日(月)、一番町口ビー2Fホールを 会場に開催しました。

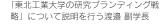
前半は「東北工業大学の研究ブランディング戦略」と題して、 本学 渡邉浩文副学長より話題提供があり、本学が取り組んでい る研究ブランディング戦略について今後の展開も含め、説明があ りました。

後半は、各県で活躍されている本学卒業生から、「地域から工 大に期待したいこと」をテーマに、それぞれが期待していること について提言いただきました。来場者からも活発な意見をいた だき、東北工業大学の研究ブランディングのキックオフ事業に相 応しい充実した議論の場となりました。



この会議には多くの卒業 生の皆さまにご出席いた だきました







来場者の皆さんからも貴重なご意見をい ただきました

■平成30年度共同プロジェクト研究・地域連携プロジェクト研究テーマ一覧

共同プロジェクト研究 実用化開発研究(研究支援センター)

プロジェクト名	学科名	代表者
目の不自由な方を誘導するガイドロボットの開発	電気電子工学科	丸山 次人
緊急速報統合情報処理システムの研究・開発	情報通信工学科	松田 勝敬
シミュレーションアプローチによる仙台都市圏の交通需要予測ツールの開発	都市マネジメント学科	菊池 輝
カーボンナノチューブ織物状発熱体の太陽光発電分野への応用に関する研究	環境エネルギー学科	齋藤 輝文
液体より発生するホルムアルデヒド検出装置の開発 - 基本設計 -	環境エネルギー学科	丸尾 容子

共同プロジェクト研究 実用化試験研究(研究支援センター)

プロジェクト名	学科名	代表者
ユーザ負担の少ない肺機能測定用ウェアラブル機器の開発	電気電子工学科	辛島 彰洋
災害に強い避難拠点施設を実現するための新たな免震構造の提案	建築学科	船木 尚己

地域連携プロジェクト研究(地域連携センター)

プロジェクト名	学科名	代表者	
宮城県女川町における観光振興政策支援のための基礎調査研究	都市マネジメント学科	泊 尚志	
仙台市秋保地区を対象とした QOL の向上を目指した実践的研究	安全安心生活デザイン学科	伊藤 美由紀	
旧城下町・登米の歴史的建造物における文化財的価値を醸しだすディスプレー制作	建築学科	中村 琢巳	

◆「平成30年度高等学校工業教育技術研修会」が本学を会場に開催されました

東北工業大学と宮城県教育委員会の連携による「平成30年度高等学校 工業教育技術研修会」が、8月21日(火)・22日(水)の二日間、本学 電気 電子工学科 組込みシステム開発研修センターを会場に開催されました。

この研修会は、本学と宮城県教育委員会との包括連携協力に関する協 定に基づき、本学と宮城県総合教育センターが共同で開催したものです。 講師は、電気電子工学科丸山次人教授(学科長)と中山英久准教授が務 め、県内各地の学校で工業を担当する教員9名が集まり、教科の指導に役 立てようと自走口ボットのプログラミングなどに取り組みました。

また、この研修会には本学で教職課程を履修している学生も参加し、現 職の教員と接することで、絶えず研修に努め、自らの資質能力の向上に取 り組む姿勢を感じることができた貴重な機会となりました。



丸山教授と中山准教授が講師を務めました

◆平成30年度 第3回テクノフォーラム (仙台城南高校探究科)

共通教育センター 多田 美香 准教授

工大祭の前日、仙台城南高校探究科1年生を対象とし た第3回テクノフォーラムが開催されました。目的は、大 学の授業を体験することで学問研究への興味を引き出 し、進学意欲を高めることです。11名の講師の中から私 を選んだ生徒さんは2名でしたが、face-to-faceで授業 を進めることができました。生徒さんから「沢山質問が でき、とても楽しい時間だった」、「工学は機械を作ると いうイメージが強かったが、バイオロボティクスの研究に 興味を持ち、工大の他の研究も知りたいと思った」など、 前向きなコメントをいただきました。今後が楽しみです。



工学から学ぶバイオ医療の授業風景

◆「女川1000年後の命を守る会」の活動メンバーとして復興大臣から表彰

経営コミュニケーション学科2年の鈴木元哉さんは、東日本大震災で被 災した宮城県女川町の生徒達(当時中学生)が作った「女川1000年後の 命を守る会」の中心的なメンバーです。昨年10月に仙台市で開催された 世界防災フォーラムではその活動について報告をしました。

継続的に震災の体験を子供たちに伝える活動を行っており、命を守る ことの大切さについて書いた本も自費出版しました。夏には、平成30年7 月豪雨により甚大な被害が発生した愛媛県西予市の被災地で災害ボラン ティアも行いました。

これら防災に関する活動の功績を称え、今年8月18日(土)に復興大臣 から感謝状が贈られました。



贈呈式後に「女川1000年後の命を守る会」のメンバーと共に(右端が鈴木さん)

◆本学が参画する仙台八木山防災連絡会が「平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

安全安心生活デザイン学科 伊藤 美由紀 准教授

本学の地域安全安心センター(安全安心生活デザイン学科の組込セン ター) が幹事役を担う、仙台八木山防災連絡会(2008年に開設・2018 年現在44団体から構成)が、「平成30年防災功労者内閣総理大臣表彰」 を受賞しました。同連絡会が、地域関係機関で連携し災害時の人的ネッ トワーク構築のために各種活動に取り組み、若年層の防災意識の高揚を 図るなど地域の防災力向上に貢献したことが認められました。

9月18日(火)には、総理大臣官邸の大ホールで表彰式が行われ、仙台 八木山防災連絡会の会長を務める田中礼治本学名誉教授が出席しまし た。



◆東北工業大学製品安全シンポジウム 「未来ある子どもたちに生活技術力の向上を!!

安全安心生活デザイン学科 伊藤 美由紀 准教授

『東北工業大学製品安全シンポジウム2018』を、11月17日(十)、一 番町口ビーを会場に開催しました。

今回は、体験から感覚を磨き成長する子どもに対し、「危険」の予測や 「事故」の回避に関する知識やスキルをどう教育すべきかを視野に入れ ました。子どもの生活技術力を高めるための取り組みについて、木村創 副園長(認定向山こども園)や小田浩一探究科長(仙台城南高等学校)な どの教育の立場から現状や課題を紹介していただき、消費生活の専門ア ドバイザーの立場からメッセージもいただきました。

参加者は学生も含め約60名であり、パネリストと共に意見交換、情報 共有を行いました。



5名のパネリストによる ディスカッション



◆第13回「秋の八木山フェスタ」が 開催されました

東北工業大学が共催する第13回「秋の八木山フェスタ」 を、文化の日にあたる11月3日(土)に開催しました。

本学は、主に八木山市民センターを会場に、ブーメラン ワークショップやたのしいロボットランド、ペーパークラフ ト展示・制作教室、お菓子の家づくり、木の置時計づくり、 写真部展示、吹奏楽演奏など多数の企画イベントを行いま したが、その他にも仙台城南高校の学校紹介や作品展示、 ワークショップなども行われ、八木山市民センターを訪れ た多くの皆さんに、楽しみながら東北工業大学や仙台城南 高校の学びに触れていただくことができました。



当日はたくさんの方にご来場いただきました

ROFILE 教員ピックアップ

建築学科 福屋 粧子 准教授 がご紹介



建築学科 中村 琢巳 講師



東北の伝統建築調査や活用に活躍

中村琢巳講師は2016年に本学に着任されました。専門は「建築史」です。2007年に東京大学大学院で博士(工学)の学位取得、神戸の建築系博物館・竹中大工道具館に勤務、展覧会を企画・制作する学芸員を経て、いまは本学で「ヨーロッパ建築史」や「日本建築史」の授業を担当されています。建築史学は、歴史的な建物の実測調査や古文書の読解、職人技法や伝統素材の研究などを通して、多角的に建築の文化的な特質をさぐる学問で、建築学のなかでも文系よりの分野です。一方、研究室の学生たちと取り組むフィールドワークも熱心に行われていて、歴史的建造物の調査成果を保存・活用へと活かす実践的な面もあわせもちます。宮城県内の歴史的な町を中心に、北は青森県津軽地方から南は福島県会津地方まで、東北各地で学生たちと日々、調査活動を展開されています。



近世寺院建築の調査での集合写真

topics

「第2回工大サミット」を開催しました

芝浦工業大学豊洲キャンパスを会場に10月27日(土)、「第 2回工大サミット」を開催しました。

「工大サミット」とは、理工系大学5大学(愛知工業大学、大阪工業大学、芝浦工業大学、広島工業大学、福岡工業大学)が人的・物的資源、情報の共有と相互の連携・協力による理工系高等教育の更なる活性化を目的として2017年3月に設立。日本の工業立国を支える人材育成において、イノベーションを創出し、グローバルな環境で活躍できる人材育成を共通課題としています。今年から本学が新たに参画し全国6工業大学となったことにより、全国各地の特色を生かした地方創成も含めた、工業立国日本の人材育成課題を共有する場となっています。

当日は、はじめに今回の幹事校である芝浦工業大学の村上雅人学長と文部科学省高等教育局の白間竜一郎私学部長の挨拶があり、その後、事例報告・パネルディスカッション・講演が行われました。

事例報告では、「国際社会で活躍できる理工系イノベーション人材の育成」について、各大学の学長・副学長から報告があり、本学は、今野弘学長が学生の育て方について、大学の紹介を交えながら行いました。その後休憩をはさんで、リクルート進学総研の小林浩所長による講演が「工科系大学の人材育成に対する期待」と題して行われました。

パネルディスカッションでは、「若い世代の関心を高める方法」「女子学生の入学増を果たした大学」「理工系大学生の減少」「IRデータの活用方法」などについて、6大学の学長・副学長が壇上にあがり活発な議論が行われました。

また、同キャンパス内で各大学によるロボット展示やロボットバトル「ROBO-ONE」も行われ、電気電子工学科 藤田研究室がロボット(6脚クローラ型不整地移動ロボット)を出展しました。









column

さるわたり いよこ

猿渡 英代子 ウェルネスセンター カウンセラー

「カウンセラーとして日々感じること」

日々、学生さんとお会いする中で、ふと、幸田文の「木」 に出てくる「アテ」の話を思い出します。幸田文は、幸田露 伴を父に持ち、その作品は、どこか自分の「居場所」を探している感じが します。

この作品に出てくる二本の檜は、周囲の環境の変化で差がつき、片方は優秀な木となり、もう片方は「アテ」と呼ばれる建築資材として役に立たない木となっていきます。成長過程で、優位に立ち枝葉を広げ真っ直ぐに伸びる木と、その隣で他の木に遮られて成長を止めてしまう木。その後、環境の変化で、木の周囲に空間が出来て、まるでそれまでの遅れを取り戻そうと、傾いて伸びていった木。この方向転換の時に背負った癖が「アテ」になります。身をよじりながら必死に成長してきたその曲がりや歪みを、役立たずだ厄介者だと言われることに幸田は自分を重ねながら話が進みます。

「アテ」の癖は、見方を変えれば大変な環境を生き延びてきた力だと思います。そして、面接の中で、大変な環境の中で成長してきた学生さんと出会うことがあります。生きにくさを訴える中で、その中にある力を最大限に発揮できるようお手伝いしたいと思いながら面接を重ねています。

これからの主な行事予定(平成30年度)

| _E | • 2

● 22日(火) 定期試験時間割発表

● 29日(火) 後期授業終了/後期補講日③

● 30日(水) 後期定期試験①

● 31日(木) 後期定期試験②

2月

● 1日(金) 後期定期試験③

● 14日(木) 後期成績発表/追再試験時間割発表

3 ⊨

• 4日(月) 合同企業説明会

5日(火) 合同企業説明会

● 8日(金) **卒業者発表**

20日(水) 学位授与式26日(火) 進級者発表

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-

東北工業大学 入試広報課

E-mail: kohositu@tohtech.ac.jp